

## 能登町柳田地区における歴史・文化遺産の再発見と活用

学生団体名：東四柳ゼミナール（金沢学院大学美術文化学部文化財学科）

参加学生：寺口 学・勘左直大・高木悠平・沢田早紀・水毛生貴之・麦居和真・津川結貴

### 1. 地域活動の概要

私達が活動を行った奥能登地域は、石川県内でも過疎化・高齢化が急速に進んでいる地域です。そして、過疎化・高齢化などにより地域の歴史や文化は存亡の危機に瀕しています。そこで、私達は能登町柳田地区（旧柳田村）を活動の場として、地域住民の皆さんと学生が交流しながら地域の歴史や文化の素晴らしさを再発見・再認識し、町おこしの起爆剤となることを目標として活動をおこないました。

### 2. 地域活動の具体的な内容

#### ■第1目標：「能登町柳田地区を知る」

平成22年（2010）8月6日（金）[学生参加人数：6人]・19日（木）[学生参加人数：6人]

最初の活動として、学生が地域の歴史・文化・地理について認識する必要があると考え、主に能登町字石井在住の瀬戸久男さん（能登町文化財審議委員）にご案内していただきながら、柳田地区東北部の石井・国光・鴨川・長尾・小間生・鈴ヶ嶺・久田・上町の各地区を巡りました。

訪問した各地区では、瀬戸さんや地元住民の方々に文化財・寺社仏閣の由来や伝説をお話していただき、私達の活動目標を数多く発見することができました。また、訪問地区内には「日本の原風景」ともいえる景観が数多く残され、柳田地区における歴史・文化の深さ、豊かさを実感することができました。



龍が封じ込められている井戸



鴨川住吉神社



石井諏訪神社



用水脇を歩く



住民との対話風景



瀬戸さん右奥の説明をける金沢学院大生  
「能登町石井の感福寺」

金沢学院大の東四柳史明教授とゼミ生10人は19日、能登町の柳田地区を訪れ、中世の遺構や遺物の調査を始め、久男さんの案内を受けた。1975(昭和50)年発行の旧柳田村の村史などを基に古道なども調査し、来年2月に調査結果を報告する。東四柳教授は年内に4~5回の調査を予定する。

東四柳教授らは室町時代、柳田地区の中心地だった石井地区から調査を始めた。町文化財保護審議委員の瀬戸久男さんの案内を受けた。

### 中世の柳田を調査

金沢学院大・東四柳ゼミ

平成22年（2010）8月20日（金）  
北国新聞朝刊

#### ■第2目標：地域の文化に触れる

平成22年（2010）9月2日（木）[学生参加人数：5人]・12月5日（日）他[学生参加人数：4人]

次に、実際の伝統文化に触れるという活動として、久田地区に伝わる「久田和紙」の和紙づくり体験（9月2日実施）と「あえのこと」に関する活動（12月5日（日）他実施）をおこないました。

#### ①久田和紙づくり体験

久田和紙は、楮（こうぞ）を使用した丈夫な和紙で、江戸時代から特産品として生産されていました

が、戦後に生産が途絶えてしまったため詳しいことは不明です。しかし、地元住民が和紙づくりの技術を掘り起こし、小間生小学校の体験学習として復活させました。2002年の小間生小学校の閉校により、再び存続の危機を迎えることとなりましたが、小間生小学校の教頭であった山下ミチ子氏の努力によって和紙作りが存続され、和紙づくりを習得した地元住民によって『みわ会』が結成され、現在、一般に和紙作り体験を実施しています。

和紙づくり体験では、まず、冬期に加工・保存されていた原料（楮）を水と混ぜ、ネリとしてトロロアオイを混入し、「溜め漉き」という手法で紙すきをおこないました。スノコをはめた漉桁（すきげた）で紙料液をすくい取り、漉いた紙から水分を絞りとり、その紙を乾かすと和紙ができあがります。紙を漉くとき、紙の厚さを均等しなければなりません。思った以上に難しく、ポイントは紙をすくい上げる時に、波が立たないように水平に持ち上げることだと教えていただきました。

和紙づくり体験では、和紙を作るだけでなく、それを利用した作品づくりにも挑戦しました。私達は「しおり」や「団扇」を作りましたが、みわ会では人形や造花などの手の込んだ作品も製作し、地元や東京で展覧会を開いているそうです。また、柳田中学校では久田和紙を使った卒業証書作り体験を実施しているそうです。コウゾ採りから始まり紙すきまで、全て自分たちの手で作る卒業証書は世界で一つだけの宝物となります。そして、能登町のすべての学校の卒業証書を久田和紙で作ることがみわ会の「夢」だと語っていらっしゃいました。

なお、謎の多い久田和紙の情報を収集する活動として、能登町が保管している古文書から久田和紙を探し出す作業もおこないました。この作業では、私達の先輩で和紙の研究をされている滝沢真由美さんにご協力していただき、断定はできませんが何点かの久田和紙が使用されていると思われる古文書を見つけ出すことができました。



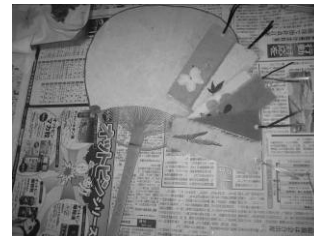
和紙を漉く学生



漉いた和紙を外す



しおり・団扇づくり



完成した団扇・しおり



久田和紙搜索風景



久田和紙と思われる古文書



久田和紙搜索風景



久田和紙搜索風景

## ②「あえのこと」に関する活動

「あえのこと」は、奥能登に分布する農耕儀礼で、国の重要無形民俗文化財に指定されています。近年においては、ユネスコの世界無形遺産にも登録され、その重要性は世界にも認められました。

「あえのこと」とは、一年の収穫が終わった12月5日に、田の神様を家へお迎えして、御膳などを用意してもてなすという行事であり、「あえ」は「もてなす」、「こと」は「行事、行為」を意味し、まさに、「神様をもてなす行事」なのです。そして、12月5日に家へ迎えられた神様は、2月9日にもとの田へ返され、その年の豊作が祈られます。

「あえのこと」は、このような内容で進められるのですが、私達は神事が始まる以前から「あえのこ

と」に関する補助活動をおこなってきました。内容としては、周知活動として能登町が作成した「アエノコト」料理のレプリカと説明パネルの作成のお手伝いや、古写真などの史料を搜索する作業などもお手伝いしました。

「あえのこと」の神事については、柳田植物公園にて行われた神事を見学しました。見学の他に、神事後に行われる「あえのこと」の食事会（直会）の準備作業（料理の配膳作業のお手伝いなど）に参加しました。そして、神事を取り仕切っておられる田中登さんとお話する機会をいただき、「あえのこと」の由来などのお話をお聞きすることができました。また、「あえのこと」の料理に詳しい柳田植物公園職員坂本さんから、レシピや料理の意味などについてお話していただきました。



神事の様子（田中氏）



「あえのこと」紹介パネル



レプリカ展示会告知ポスター  
（学生がデザインしました）



レプリカ飾り付け風景



レプリカ飾り付け完成

### ■第3目標：地域住民の皆さんとの交流会

平成22年（2010）12月27日（月）[学生参加人数：6人]

私達がこれまで実施してきた活動の紹介、また、地域住民の皆さんへの能登町に関する質問、反対に地域住民の皆さんからアドバイスしていただく場として、交流会を実施しました。交流会は2部に分け、第1部は若手の役場職員さん（20代～40代）、第2部は柳田地区の有識者の方々に参加していただき、これまでの活動をまとめたビデオを見て頂いた後、交流会をおこないました。

#### 【参加者からの意見・感想】

- ・柳田で文化財といえば「あえのこと」くらいしか思いつかなかったが、学生さんの活動紹介を聞いてまだ色々な遺産があることを知りました。柳田には人気のある温泉もあるので、そういう歴史遺産をめぐったりしながら、温泉に入ったりして、健康づくりに活用する方法もあると思います。
- ・自分達は昔からここに住んでいるのでなかなか実感できなかったが、他の地方へ行くと「食」の美味しさを実感します。米・魚など、ありふれたものでも能登のものを食べると他の物が食べられなくなります。極端に言えば水道水すら他にくらべれば美味しいです。ですから、それをどうにか活用できないかと思っています。

この他、たくさんのご意見をいただきました。



交流会の様子（第1部）



交流会の様子（第2部）



交流会の様子（第2部）

### 3. 地域活動の評価

地域住民の方々がこれまで「当たり前」だと思っていたことに、私達が改めて触れることにより、その素晴らしさを地域の皆さんに気付いていただけたのではないかと思います。交流会でも、若手職員の

方から「言われてみればそうだ。」「気付かされたことが多くて、とても勉強になりました。」との言葉をいただきました。また、地元有識者の方々からも「文化財などに伝わる伝説なども、聞いたままに信じていたが、学生の皆さんの活動によって、色々な疑問が湧き、また解決でき、とても刺激になりました。」との言葉をいただき、地域住民の皆さんに地元の歴史・文化の深さを知っていただくことができましたと思います。そして、私達自身も、学問面や社会面など様々なことを学ぶことができました。

#### 4. 今後、この地域活動を継続、活発していくために必要なもの、及び課題

これからは、さらに年齢幅を広く持ち、特に若い人との交流を重視し、若い人に地元で自信をもってもらう、好きになってもらうような活動を目指さなければなりません。そのためには、さらなる遺産の発掘はもちろんですが、歴史・文化探訪コース、マップの作成など、わかりやすく興味をもっていただくような広報活動をする必要があります、食文化や健康といった視点も重視する必要があるでしょう。また、その策定にあたっては学生が先走り過ぎ、地域の人々を置き去りにすることのないように地域との交流・対話を重視し、学生からばかりではなく、地域の皆さんから進んで活発なご意見が頂けるような環境づくりを目指して努力していかねばなりません。

#### 5. その他（学生や地域の方の感想等）

□瀬戸久雄氏（能登町文化財審議委員）

今回、学生の皆さんとの活動に参加させていただき、大変な刺激になりました。特に歴史や文化の面で多くのことを学ばせていただき、これからも学生さんと交流の機会を増やしながらか、よりよい町づくりを進めていきたいと思ひます。

□新出直典氏（能登町教育委員会）

文化財の担当者としてこの町について色々なことを学んできたつもりでしたが、まだまだ知らないことが沢山あることに気付かされました。今後も学生の皆さんとともに学び、町の遺産の発掘・活用に尽力していきたいと思ひます。

□谷内拓哉氏（能登町教育委員会）

「町の魅力」というものは、観光資源として活用されているものばかり浮かんでしまひますが、皆さんとお話をして、当たり前と思ひている能登町の自然・食文化なども財産なのだと思ひました。

□沢田早紀（金沢学院大学 美術文化学部 文化財学科 3年）

能登町の方々と交流を深める中で、地域の伝統・文化を後世に残したいという強い想ひを感じました。今後、私たちのような若い世代がより地域に関心を持つような活動を続け、幅広い世代が協力して町づくりを進めることができるような環境を整えることができるよう努力したいと思ひます。

□水毛生貴之（金沢学院大学 美術文化学部 文化財学科 3年）

今回の活動は、なかなか接する機会の少ない多くの方々とお話をすることができ、多くの見識を得ることができました。今後、ここで得た見識を活用しながら、発展させた取り組みを実施していければと思ひます。

□麦居和真（金沢学院大学 美術文化学部 文化財学科 3年）

はじめて柳田の景色を見たときは、緑が豊かできれいなところだな、という印象を受けました。交流を深めるうちに、どうしてこのような素敵なおところを今まで知らなかったのだろうと、不思議に思ひました。柳田にはまだまだ歴史遺産が眠っています。しかしそれ以上に、柳田の素敵なおところを発掘していきたいです。

